



ワカタネから訪問団

ニュージーランドの姉妹都市・ワカタネからコリン・ホームズ市長夫妻はじめ、20人の市民が鎌ケ谷市を訪れ、歓迎パーティが行われた＝写真上。

この夏、KIFA派遣の高校生4人がロングステイで通学したトライデント高校のピーター・トゥーテル校長、ポール・ロバーツ先生と一緒に来鎌され9月23日、市の総合福祉保健

センターで開かれた「歓迎パーティ」で4人の高校生らは、感激の再会となった。

ようこそポール先生



(写真は左から、トライデント高校のピーター校長、ポール先生と吉田亜里紗さん、杉本奈菜子さん、小林隆史くん、石丸未来さんの4人の高校生)

姉妹都市交流・ロングステイでお世話になりました

「ワカタネでの経験で私たちはひと回り成長して帰国しました」——ニュージーランドの姉妹都市・ワカタネの一般家庭にホームステイ、高校に通い、外国生活を経験した4人の高校生が英語オンリーの授業や楽しかったり、遊んだりした交流体験を語った。

ありがとう！

「ひと回り成長しました」
4人の高校生が体験報告

4回目になる2006年度・KIFA企画主催の「青少年ワカタネロングステイ報告会」が8月27日(日)、4人の高校生とその母、清水聖土市長、寺島正方教育委員会委員長ら市の教育・文化の関係者、KIFA・酒井哲郎会長、岡本靖子前会長らが出席して開かれた。

* プレゼンで自己PR

今回のロングステイは7月28日から8月24日までの28日間。派遣された高校生は、自ら応募した石丸未来さん、小林隆史くん、杉本奈菜子さん、吉田亜里紗さんの4人。

ワカタネでのステイはプレゼンテーションのパフォーマンスから始まった。小林くんが「ギター演奏」、石丸さんが「もたろうの紙芝居」、杉村さんが「おりずる」、吉田さん

は「浴衣の着付け」と、それぞれ用意して行った出し物で日本を紹介し自己PRを行った。なかなかの好評を博したという。

* 学校生活

学校は科目選択制で、好きな授業を選んで受ける大学のようなという。英語の授業はほとんど分からなかったが、休み時間にはクラスの友だちが、サッカーなど分かりやすい話題をやさしい単語で話し合い、知っている単語で答えるなど、休み時間が日本の高校生活に比べ楽しかったという。

授業は結構やかましかったが、質問や意見が活発で日本とは違うなと思った。日本の授業は重く、ワカタネは楽しい、というのが学校への印象だったようだ。

* ホストファミリー

ホストファミリーとの生活はさまざま、朝食のシリアルは自分で用意したり、日本でやったことがないこともあったり、シャワーだけの入浴にとまどったりもしたようだ。

共通しているのは、とにかくホストの家族が温かく、お弁当を毎日作ってもらった人もいる。休日は必ず公園とか、動物園に連れて行ってもらったという。

トライデント高校のポール先生の報告によると、最後の日は優しい家族と別れるのがつらくて、みな涙、涙のサヨナラシーンを繰り上げたという。

また本人たちも「英語学習はもちろん、心の成長にも大変な糧となった」(母親たちの証言) ようだ。

(Y.T)



左・自己紹介のパフォーマンスをする4人。右・クラスメートたちと「ハイ・ピース」

KIFA「青少年による青少年のための 国際

夏の一、貝柄山公園にヤングたちの歓声のはじけた——KIFA交流部による青少年国際交流事業「ウォークラリー&ランチパーティ」が7月30日（日）、高校生男女を中心に50人が集い、ウォークラリー、ゲーム、ランチパーティを楽しんだ。韓国、スリランカ、ミャンマー、ベトナム、バングラデッシュの在住外国人7人の参加者があり、高校生らは初めて話す外国の友だちに戸惑いながらも、遅かった梅雨明けの空の下、友だち作りと国際交流の一日を過ごした。

ウォークラリー&ランチパーティ

この日、貝柄山公園の馬の銅像前には9時頃から、男女高校生が2、3人また数人と幾つかのグループが集まり始め、小西克典リーダー（別項参照）と若いボランティアスタッフによるイベントの一日がスタートした。

KIFAのおじさんスタッフは、まったくの裏方で、旗の設置、パーベキューコンロ組み立て、炭の火起し、買い出しの付き添いなど。

10時45分から受付開始。事前申し込みの家族連れ、小学生らしき子どもたちも親に連れられ並んだ。市内の一般参加者は13人。スタッフら高校生が5人。KIFAスタッフが10人。都内から参加した韓国人2人を含め外国人は7人。あとは市外の高校生スタッフが占めた。

11時開会式、酒井哲郎・KIFA会長によるあいさつの後、受付の際、受け取った絵合わせでラリー参加者のグループ分けを行った。絵の一部を持って絵合わせをしながら仲間探し、一枚の絵が出来上がり7、8人ずつ3グループ、エルモ、ドラえもん、ミッキーの3グループが出来上がった。

さあ、ラリーチェックポイントへ出発。ヒントカードを手がかりに、なぞを解きながらお宝をゲットしようぜ。参加資格は39歳以下となっているが、年齢を詐称して酒井会長、長南勇副会長もメンバー登録、ヤングに混じってチェックポイントへ向かった。

◎チェックポイントは5カ所

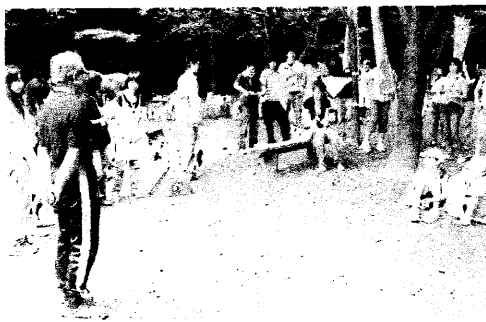
ポイントは公園内に5カ所設置されている。縄跳び、小豆運び、バレーボール、なぞなぞ、万歩計の腰振りカウント。それぞれ単位時間内での回数や数を競う。

身軽に縄跳びの数をかせぐ小学生の参加者に「スゴイ!」。初めての外国人参加者には励ましの声援が飛ぶ。

コロコロと箸から逃げる小豆運びに悪戦苦闘する女子高校生。上手に摘む男の子もいる。

風に流れる青いビーチボールを追いかけ、チーム力が試される。2、3回しか続かないグループや空中ラリーを何回も続けるグループもある。

なぞなぞカードを見つめて「うーん」「わかんねーな」「あ、分かった」と、ジェスチャーや尻文字で答える若者たち。このなぞなぞコーナーには苦戦しているグループが多かった。



開会式であいさつする
酒井哲郎会長



チェックポイントの
縄跳び



エルモグループ



ドラえもんグループ



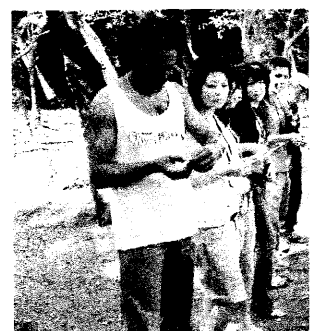
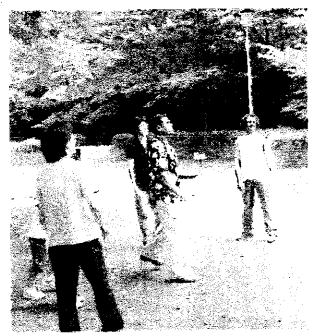
ミッキー

◎ランチパーティ、ゲーム大会

そのころ馬の銅像広場では、KIFAスタッフの手でランチの準備は完了。パーベキューコンロの炭は真っ赤。全グループ揃ったところでランチパーティ開始。肉の焼ける匂いがただよい、ヤングたちの声高い話と歓声とともに、トウモロコシの焼ける香りもしてくる。

ひと時の交流歓談のあとはゲーム大会だ。外国で行われているゲームを紹介、紙テープ割り、信号は何など、実際にやってみれば日本にも似たような（だるまさんがころんだ）ゲームもある。全活動を4時過ぎに終了。

成績に応じ表彰がおこなわれ、最後に酒井会長から「今日は一日中興奮していた。このような若者によるイベントを今後も続けていきたいので、皆さんの参加をお願いしたい」との閉会のあいさつ。意義ある「青少年による青少年のための国際交流イベント」が終わった。



「若い力」



ボランティア
リーダーの
小西克典くん

この
バー
その
たく
実施

中心
大学
スピ
の一

代から地域の子どもたちも
揮してきた。その成果が計

昨年のボウリング大会
事業」を立ち上げて見よ
内の高等学校はじめ、松

交流」



チエックポイントの
バレーボール



バーベキューで
ランチパーティを楽しむ



紙テープ割り・ゲーム



グループ



右・フィリピンでボランティア活動体験したJRC千葉県支部のメンバー。左・学校を訪問した竹内さん（中央の白い服）



心と心の交流の大切さを学ぶ

鎌ヶ谷二中の生徒 フィリピンでボランティア活動！

鎌ヶ谷二中の3年生・竹内由佳さん。

彼女は今夏、日本赤十字社（JRC）千葉県支部から派遣されたフィリピン訪問団（中高生7人）に選抜され、現地でボランティア活動に参加してきた。

「小学生のころから私はJRCで活動してきました。フィリピンでは、普通の旅行では行けない奥地で、土地の子どもたちと交流してきました」

二中では生徒会会長、部活は陸上部という竹内さんは、ハキハキした口調で取材に答えてくれた。期間は7月27日から8月3日の8日間。

フィリピンでは、マニラに3泊、レイテ島に3泊、サマル島に1泊した。レイテ島では、大岡昇平の戦記で有名な激戦地跡も見えてきた。

太平洋戦争を知る年配の世代は「日本に対する悪感情」、それを知らない若い世代は「日本はおカネが稼げる、憧れ」のイメージを、フィリピン人は抱いている、と竹内さんは感じた。

「小中学校を10校ほど訪問しました。日本の伝統や文化を知ってもらおうと、ソーラン節の歌と踊りを子どもたちに教えました。また、けん

玉などの遊びも。彼らは一生懸命で、心が澄み、目が輝いていました」

●体験を生かして先生になりたい

いわゆる発展途上国のフィリピン。物乞いがつきまとう。トタンや茅葺の屋根。地べたで売られる食料品。排気・排水などの衛生・環境面での遅れ。治安の悪さ。あれこれ目の当たりにしてきた。

「日本にない情景にひどいショックを受けました。『なんと貧しい国なんだ』と日本人は思うかもしれませんが、子どもたちはモノがなくても色々工夫して楽しんでいるのです。たとえば、葉っぱで草笛を作るとか。私は、モノでない心と心の交流の大切さを体験してきました」

「今回の私の体験を生かし、みんなに伝えていくために、将来は子どもに関わる仕事をしたい。そのために小学校か中学の教師になることが私の夢なんです」

国際交流を多感な青少年時代に体験した若者たちの未来の活動に、大いに期待したいものである。（K.H）

が牽引した初の試み

までKIFAの青少年国際交流事業は交流部のメンバーによる企画を実施してきた。昨年はボウリング大会、今年はバスハイクなど。今年度は、これまでとはまったく異なる方式で青少年たちによる企画立案、準備を経てられた。

になったのは交流部の学生ボランティアスタッフ・年生の小西克典くん。彼は2005年度「ボランティアット賞」全国表彰10人（アメリカの保険会社主催）に選ばれたヤングボランティアの第一人者。中学時代の遊びや奉仕を企画指導、子ども会の育成に力を発揮められて「全国賞」を受賞した。

参加した彼は、今年は若者の手で「青少年国際交流」と決意。4月初めから手作りの企画書を持って、市、柏市の高校、大学を一人で回った。訪問先の学

校の対応に戸惑いながらも、ボランティアスタッフの参加者集めに奔走した。

そして4月30日に開いた「第1回国際交流ボランティアスタッフ会議」には外国人5人を含め、総勢27人のメンバーが集まった。参加動機はさまざまで、友だち作り、どんなものか興味半分、外国人と知り合いになりたいなど。

その後、4回の高校生ボランティアスタッフ会議を重ね、出席者も漸減傾向ではあったが、それが一層の団結力になり、一丸となる集中力にもなった。当日のタイムテーブルも決まり、後は「雨よ降らないで」と祈るばかりとなった。

幸いにも当日、天は彼らに味方。「ヤングたちの知恵と活力を結集した」ウォークラリー＆ランチパーティの一日となった。

ボランティアスタッフとして参加した学生たちの感想としては、「新しいチャレンジをしてみたかった」「国際交流を体験してみたかった」「進路にもプラスになった」など、それぞれに納得できる結果を出していたようだ。（Y.T）

市民夏まつりでKIFAの活動をPR 世界の飴を試食・配布

8月26日(土)、貝柄山公園で市民夏まつりが開催された。鎌ケ谷市国際交流協会・KIFAもイベントに参加して、会員募集と活動広報のブースを開設した。

語学学習、交流事業の記録写真を多数掲示し、一年間の多彩な催しをPRした。

ブース前では珍しい世界の飴(トルコ、ベルギー、ドイツ、韓国、中国)を無料配付し、家族連れに人気を博した。また、ユニセフ支援・文庫本チャリティを行い、訪れた市民の注目を集めた。



日本語学習の 在住外国人

中央公民館で毎週火曜日の夜、7時30分から開かれている日本語教室では7月4日(火)、特別学習会が行われ、外国人に日本の文化に親しんでもらおうと「七夕まつり」が行われました。

外国人学習者10人に、日本語ボランティア19人が持ち寄った浴衣で着付けを指導、短冊に日本語

で書いた「願いごと」を笹の葉に吊るし、日本の季節行事を実体験しました。

外国人学習者が「母国のまつり」を日本語で披露、『七夕さま』の歌唱指導と二人向き合って手を打つ『アルプス1万尺』で、教室内は浴衣姿の外国人たちのはしゃいだ声が飛び交い、賑やかな夏の一夜になりました。外国人学習者にとっては楽しい思い出になったようです。

「七夕まつり」を浴衣で楽しむ



◆KIFA行事のお知らせ◆

《KIFA主催・講演と英語落語の実演》 『日本の笑い・世界のユーモア』

講師：大島希巳江(文京学院大学助教授)

専門は異文化コミュニケーション、社会言語学、ユーモア学。1996年から英語落語を手がけ、毎年海外公演を行っている。

日時：10月29日(日)午後1時30分開場、2時開演

会場：鎌ケ谷市総合福祉保健センター6階大会議室

定員：200名。会費：無料

◎第1部・講演会、第2部・英語落語『動物園』

英語の苦手な方でも楽しめます。



外国人や会員相互みんな一緒に交流を楽しもう!

『KIFAパーティ』11月12日開催

☆軽い軽食と飲み物の立食パーティ

☆民族衣装と文化の紹介、地元中学生のギター演奏

☆韓国、ニュージーランド、日本語講座のブース

日時：11月12日(日)午後0時~3時

会場：鎌ケ谷市総合福祉保健センター6階大会議室

参加費：一般1000円(1500円)、中・高・大学生500円(700円)、小学生300円(500円)

()内は非会員料金です。

当日券は上記各参加費の500円増。

『KIFA英会話サロン』に集まれ!

第2回『英会話サロン』のテーマは、身近な暮らしの話題『私たちの地球』について、英語で語り合います。外国人相手に英語力を試してみよう。

日時：12月10日(日)午後1時~3時

会場：鎌ケ谷市総合福祉保健センター6階大会議室

会費：会員 700円、非会員 1000円 定員：30名

パネリスト：デリック・スミス(カナダ)、

ジェームス・チェネリー(イギリス)、

アネッテ植松(ドイツ)

「お知らせ」の問合せ・申込みは

鎌ケ谷市国際交流協会事務局まで。Tel: 047(445)1141 (内線550) Fax: 047(441)9400

編集後記

★「若い世代の事業参画の推進」を目指してきた酒井哲郎新体制も発足半年になりました。★この夏の交流部事業「青少年国際交流イベント」は一人の大学生ボランティアが推進役になって、企画からイベント運営まで見事に実行しました。★また、中学3年の女子生徒がフィリピンでボランティア活動を体験してきました。★KIFAの主事業でもある姉妹都市・ワカタネ・ロングステイには、4人の男女高校生が応募し、外国の学校生活を体験してきました。★そのワカタネの市長さん初め、4人の高校生らを世話をしてくださった方々が当市を訪れました。9月23日には歓迎レセプションも市民参加で行われました。現地に行つてはじめて分かるその国の事情、日本の良さです。国際交流はまずお互い知り合うことから始まります。(Y・T)